

(2) 指導者の養成と確保について

現状と課題

これまで、行政や各団体等では、積極的に指導者の養成が図られてきました。これらの指導者は、人権意識の高揚と取組の活性化に大きな役割を果たしてきました。

多くの場合、指導者には、専門的な知識を伝えることが重視されてきましたが、学習者の価値観やニーズの多様化にあわせ、その役割の広がりや資質の向上が求められています。

例えば、人権についての専門的知識に加え、人と人をつなぐコミュニケーション能力、さまざまな学習をコーディネートする力などの幅広い資質が必要となってきます。また、一人一人が積極的に社会づくりに参画することを支援する役割も求められます。こうした指導者の養成にあたっては、その学習内容や手法、形態等を十分考慮する必要があります。

今後の方向

身近なリーダー・指導者の養成

人権教育を具体化していくうえで大切にしたいことは、人権問題を自分の問題に引き寄せてとらえていく姿勢です。そのためには、日常生活の身近な問題を見つめることが、まず、大切になってきます。生活のなかでつい見過ごしてしまったり、気づかずに残している習慣や風習のなかで、人権にかかわる課題が含まれていることをとらえておきたいものです。

みんなが住みやすい地域コミュニティづくりを進めるためにも、家庭や地域など身近にある人権侵害に気づき、その解決に向け学習者と共に歩むことができるリーダーや指導者をそれぞれの地域や組織のなかで育成していくことが必要です。

専門的な指導者の育成

身近なリーダーや指導者の資質として、人権や差別についての確かな知識とその効果的な学習の手法を身につけていることが求められます。そのためには、このような資質をつけるための研修を企画し、具体的な内容を系統的・計画的に組み立て、実施することができる指導者が必要となります。

企業等の人材を活用したり、各種研究機関が実施している講座や研修会とも連携したりしながら、専門的な指導者の育成と確保に努めていきたいものです。

女性、若年層のリーダーの充実

これまで、研修会の指導者は、比較的男性が多く、年齢的には、中・高年層が中心であったといえます。人権教育は、子どもから高齢者まで、男性、

女性を問わず、さまざまな世代や立場の人たちがつながり、環境や福祉などについて意見を出し合うといった活動として具体化されます。みんなが生き生きと生活できる地域コミュニティづくりを実現するためにも、女性や若年層のリーダーの育成に努めていきたいものです。

こんな指導者養成講座も・・・

	学 習 課 題	内 容
5月	アサーティブトレーニング とリーダー養成	・アサーティブトレーニングを通して、リーダーとしての資質と技能を身につける。
6月	女性問題 ～メディアのなかの女と男～	・ジェンダー（社会的・文化的につくられた「性差」）意識に気づく ・テレビCMから固定的な男女役割を分析し発表する。
11月	情報の整理と発信 ～資質を高めるために～	・人権問題解決を市民に訴えるキャッチコピーを作成し発表する。
12月	人権のまちづくりを進めるために	・まちづくりアイデアを作成する。 ・気づいたことを発表する。

アサーティブトレーニング・・・他者との人間関係を大切にしながら、自分の意見を正確に伝える練習



（「ならウィメンズセミナー」での発表風景）

【これからの指導者が大切にしたいこと】

学習者と「共に学ぶ」姿勢をもち、学習者の学びを促す。
学習者の主体的な参加を促す。
人と人をつなぎ、ネットワークを推進する。
学習者と「共に歩む」活動を進めようとする。